

平成26年度第1回図書館協議会議事録

- 1、日時 平成26年8月5日(火) 午前10時から11時30分まで
- 2、場所 市民文化センター1階学習室
- 3、出席者

出席委員	会長	高 敏 裕樹	学識経験者(大阪教育大学准教授)
	副会長	蛇草 真也	学校教育関係者(国分小学校校長)
	委員	浅野 恵子	社会教育関係者(P T A協議会)
	委員	井之浦 一子	家庭教育活動者(公募委員)
	委員	扇田 節子	社会教育関係者(図書館ボランティア)
	委員	久保 明子	家庭教育活動者(公募委員)
	委員	新屋 広子	学識経験者(市議会議員)
	委員	中野 勝次	社会教育関係者(こども会連絡育成協議会)
	委員	富宅 正浩	学識経験者(市議会議員)
欠席委員	委員	吉見 静香	社会教育関係者(社会教育委員)

事務局

教育長	吉原 孝
生涯学習部長	林 和彦
生涯学習部次長兼図書館長	真野 繕意
生涯学習部図書館参事兼館長補佐	北野 良一
主幹兼国分図書館長	八幡 敏朗
柏原図書館主幹	山路 茂樹
柏原図書館主査	児玉 太津男

4、案件

- (1) 新委員の紹介
- (2) 平成25年度事業執行状況について
- (3) 平成26年度上半期事業報告及び下半期事業計画
- (4) その他

5、議事の内容

司会

定刻になりましたので、ただ今から平成26年度第1回柏原市図書館協議会を開会いたします。皆様方には、本日、公私何かとお忙しいところ当協議会にご出席賜りまして誠にありがとうございます。本日の司会をいたします、柏原図書館主幹の山路でございます。よろしくお願ひいたします。尚、職員につきましてはクールビズの関係でノーネクタイ、上着なしで出席しております。ご了承のほどよろしくお願ひ申し上げます。まず、会議に入ります前に、皆様方には事前にお願ひをしておりますとおり、本

日の会議は柏原市まちづくり基本条例第15条により「会議の公開」が規定されておりますので、本日の協議会を公開することといたしますのでよろしくお願い申し上げます。

また、当協議会に委員の方を選出していただいています団体において移動がございました関係上、新たに2名の方を委員として任命することとなりましたので教育長の方から新委員の方に任命書の交付を行わせていただきたいと思います。

<任命書の交付>

司会

それでは、開会に先立ち教育長の方から開会のあいさつを申し述べさせていただきます。

<教育長挨拶>

司会

<出席委員の紹介>

<資料の確認>

<教育長退席>

それでは、議題に入ります前に、本日の会議の成立状況でございますが、柏原市図書館協議会条例第5条第2項に委員総数の1/2以上の出席が成立要件となっております。本日の出席者は委員10名中9名が出席されておりますので、協議会は成立しております。

それでは、協議会条例第5条第1項により会長が議長をつかさどることになっておりますので、これからは高鍬会長に議事進行をお願いいたします。

<会長挨拶>

会長

それでは、次第に添って議事を進めます。

はじめに、「平成25年度の事業執行状況」を事務局から説明願います。

事務局

それでは、「平成25年度事業執行状況」を報告させていただきます。

柏原市立図書館(柏原図書館・国分図書館)は、時代の進展、変化に伴い、高度多様化する市民の学習ニーズに対応するため、幼児から高齢者までのあらゆる人々に対し、資料や情報を提供し、生涯学習を支える文化の拠点として、市民に密着した図書館運営を図ってまいりたいと考えております。

まず平成25年度の取組み状況について

1. 児童サービスの取組みとして従来継続してきた行事・展示に加え、読書を通して学習習慣、知的好奇心の育成ができるような、幼児・児童向けの行事・展示を企画し、教育機関や家庭に広報、PRすることにより、数多くの幼児・児童・保護者の行事への参加と児童サービスの充実を図りました。

また、学校との連携に努め、団体貸出の充実、加えて学校図書館担当の先生方に講習会を実施し、交流を深め、図書館と各学校との連携を図りました。

2. 生涯学習の場として高齢者向けの大活字本、録音図書、紙芝居(高齢者用)を充実させ、より多くの高齢者への図書館利用の促進に努めました。
3. 読書離れが進んでいるといわれるヤングアダルトを青少年中期にあたる、小学校高学年、中学生、高校生を中心とした世代と捉え、収集する資料も、読み継がれた資料や大人、教師が進めたい資料だけでなく、現代の若い人に支持される作家、作品にも重点を置き、ヤングアダルトコーナーを設置し、利用促進を図りました。
4. 柏原をPRするための市に関する歴史資料、文献等の郷土資料を積極的に収集し、その資料を閲覧できる柏原コーナーを設置しました。
5. 図書館相互利用制度の積極的なPRによる促進を図りました。

6. 実績

蔵書数 240,474冊(内児童書数 78,743冊)

貸出冊数 438,914冊(内児童書数 167,558冊)

貸出人数 130,779人(内児童貸出人数 22,136人)

行事参加人数 4,519人

団体貸出冊数 16,655冊

図書館相互利用制度(他市市民の柏原市立図書館利用状況)

登録者数 419人、貸出冊数 24,814冊、貸出人数 7,424人

補足ですが、柏原市の方の他市からの利用状況の提出が遅れたために25ページに別途資料1を添付しております。

平成25年度の貸出冊数は438,914冊、貸出人数は120,779人、行事参加人数は4,519人、予約件数は22,279冊、団体貸出冊数は16,655冊であり、それぞれ前年度より貸出冊数で7,439冊、貸出人数で3,470人、行事参加人数で1,550人、予約件数で1,438冊、団体貸出冊数で4,072冊の増であります。また年齢別貸出人数(60歳以上)においては平成25年度は41,005人であり、前年度より2,399人の増であります。

平成26年度は、平成25年度の利用者サービスを上回る実績を目指し、図書館サービスの充実に努めてまいります。補足ですが行事参加人数に関しては図書館概要書28ページから33ページをご参照ください。

会長

ありがとうございました。ただいま「平成25年度事業執行状況」について説明がありましたが、質問がある方は？

委員

高齢者にむけても生涯学習の担当と言うことでされていると思いますが、実際の利用人数は児童はわかりますが、高齢者の利用人数は？

事務局

平成25年度は41,005人となっています。資料14ページの①-2年齢別貸出人数に載っております。

委員

これは前年度と比較してというものは？

事務局

2,339人増となっています。

委員

図書館と学校との連携は具体的にはどのようになっていますか？

事務局

学校の図書担当の先生に来ていただき本の選書、痛んだ本の修理方法等の講習を行い、年度別に担当の先生が変わられますが、それを続けていく中で気安く学校から図書館に来ていただける、図書館から学校に気安く声をかけられるように講習会を開催し、またブックトークの要請がありましたので、国分の司書が2日間玉手小学校に行かせてもらいました。今後も増やしていきたいと思っています。

委員

高齢者用の紙芝居があると言われましたが、個人の方が借りられるのですか？利用されるのはどのような方ですか。

事務局

利用は個人の方です。児童室の紙芝居コーナーにあります。黄色のシールを貼っています。

委員

私は実際、高齢者用の紙芝居を使っています。以前は高齢者用は図書館になかったんですが、最近はたくさん入れていただいているので、それをグループで高齢者施設に行って使わせてもらってます。

委員

学校との連携で、担当者にこちらに来てもらって講演会をしているということですね。例えば、図書館の司書さんが学校に行かれて図書室をみてもらったりという交流はありませんか？

事務局

それも、考えて行かないといけないのですが、今年行ったのはブックトークという形でやらせてもらいました。選書につきましては、基本的な事典、人権・平和など授業に必要な本が少ないように感じるので、その辺りのアドバイス、意見交換等、課題として行ってまいりたいと思っています。また図書

館からの団体貸出をしますが、授業の進み方が同じなので、戦争・人権の時期は団体貸出が集中します。図書館には3セットくらいしかありませんので、基本的な物は学校の資料として置いておくのが必要だと思います。納入業者任せではなく、先生もお忙しいなか担当の先生が選書をしていただいていると思いますが、選書が一番大切な業務であるというお話はさせていただいております。

委員

各校区1名くらい専任の学校図書館司書の人がいたら図書活動が進むと思うのですが、それがなかなかできないので、せめてお忙しいとは思いますが、図書館の司書さんが学校に出向いて、プロの目を見て学校の図書活動が活発になると思います。そのような向上に向けて、子ども達のためにも考えていただけたらと思います。

副会長

私は、小学校中学校校長会から学校の図書館教育担当ということで会議に出させてもらっています。図書館担当の先生の集まりの担当をさせてもらっています。その中で図書館に来て講習会をしていたという中で、スキルとしてはありがたい。それを通じて学校と図書館とのパイプを作りつつある。

学校と図書館との連絡が行くようになり、そこから学校から図書館に対して「学校を見てもらえないか」というようなことにこれから進んでいくのではと思います。それとは別に学校に専任の図書司書、欲しいと思います。

会長

他になれば私から。

全体として、貸出数、利用者数が増えているのは好ましいと思いますが、ただ実績数、例えばガイドの27ページの市民1人当たりの貸出冊数が6.06冊ということになると、図書館の平均から言うと少し上かなという程度。悪くはないがそんなにいい数字ではない。蔵書回転率も全国平均が2でそれに対して1.83はあまり良くないかなと思う。

大きな理由として、図書購入費ですが2館で901万円です。日本の平均は1館あたり930万円くらいあるはずです。それから言うと半分くらいしかないわけで、ということで資料費もう少しなんとかならないのでしょうか？

事務局

いつも要求を出していますが、財政面のこともありまして、なかなかつけていただけないというのが今の状況です。本年も1,500万円は要求として出したいと考えています。新刊書を増やせば、利用者数、貸出冊数も伸びて、蔵書回転率も上がると思いますが、要求をなかなか通してもらえないというのが現状です。

会長

全国平均の半分くらいの資料費で、全国平均ぐらいの利用があるということでコストパフォーマンスとしてはいいかもしれない。ひとつには、おそらく柏原市の住民はよく本を読むのであろう、だから資料が少なくても来てくれる。あるいは職員が少ない資料をカバーするだけのいろんな事業をしていただいて、ようやくここにたどり着いているのかと思う。しかし、ベースとなるのは図書館は資料だと思います。92年に文部科学省が「図書館の望ましい基準」を出しています。そこには、蔵書冊数の5分の1が更新できるだけの資料費を確保することが望ましいとしています。92年はだいぶ前です。まだバブル崩壊の何年も前なので文科省もがんばった方向だと思います。蔵書数が24万冊くらいあり、その5分の1は4万8千冊くらい更新したいところ、年間受入冊数が1万冊くらいということになる。実際、5分の1を更新している図書館は日本のどこにもないのですが、やはり資料を増やすというのではなく、新しい資料に更新していくことをなんとかしていただきたいと思う。そうすれば、職員、住民の方は好意的かつスキルもあると思うので、図書館の利用がもっと伸びると思われる。

この程度でとどまっているのは、数字から見てもかなりもったいないと思います。資料費に関して、強く議会に働きかたけていただきたいと思います。

委員

市を含めて、初めて公立の図書館というのは意義があると思います。予算が無いといつも言われますが、今の実態として、本の購入に関して指名競争入札ですか。

事務局

随意契約です。

委員

それを入札に切り変えるなどして、いろんな手法があると思うので、それも含めて検討していただけたらと思います。図書館は知の拠点だと思います。子ども達も読んだ本の冊数によって国語力も差がついてくるので子ども達のためにも、ぜひよろしくお願いします。

会長

もう1点お聞きします。

高齢者に関しては、伸びているのはわかります。前年度より2,339人増といわれました。ヤングアダルトに関しては、昨年度に少し手をかけられて、ヤングアダルトコーナーを作られてその結果はどうなったのでしょうか？

事務局

昨年の途中から始めましたので、実数としてはでてませんが、12歳から18歳で若干伸びていると思います。あのコーナー中高生がたくさん集まって、情報提供しあっている光景を見ます。ヤングアダ

ルト世代が好む本を中心に集めている。そのことにより長い間図書館に来ていいななかった中高生が戻ってきているとかんがえています。

会長

14ページに年齢別貸出冊数があり、13歳から18歳がヤングアダルトとしてのターゲットと思いますが、もともとあまり多くなくて4%で、ここに力を入れたいということでした。その結果がどうかということを知りたい。

事務局

かなり、戻ってきてきています。中学になって来なくなった子が、また来るようになって司書さんに「久しぶり」という声を聞くようになりました。

会長

ぜひ、続けていっていただきたい。

委員

広域利用についてですが。

新しく資料をつけていただけていますが、奈良の三郷の図書館は柏原市のものが行っても会員にしてくれるのですが、こちらでは受け入れられないのでしょうか？

事務局

他県に渡るとい話は出ていません。柏原市に関してはできません。

委員

今後、やる方向は考えられませんか？

事務局

隣接地なので今後考えて行かないといけない問題だと思います。

委員

三郷町は隣なので柏原市にも来ていただければと思います。

会長

次に進みます。

「平成26年度の上半期事業報告及び下半期事業計画」について事務局から説明をお願いします。

事務局

事務局から報告いたします。「平成26年度の上半期事業報告及び下半期事業計画」について「平成26年度図書館取組み状況」

生涯学習を支える文化の拠点とした市民に密着した図書館運営を目標として掲げております。

1. 乳幼児・児童の人間形成において、豊かな読書経験の重要性に鑑み、生涯にわたる図書館利用の基礎を形成するためにも、読書を通して楽しみながら学習習慣、知的好奇心の育成につながる幼児・児童向けの行事・図書の展示及び親と子が一緒に参加できる行事等を企画し広報PRすることにより、数多くの幼児・児童・保護者の図書館利用を図ります。また、学校との連携を充実したものにするために、団体貸出を積極的に働きかけ司書と先生方が一緒に本を選書し、協力関係をより一層深めたい。また、意見交換を行うため、本年も図書館において講習会を開催し、図書館司書と各学校の先生方とのコミュニケーションを図っていきます。また、本年度より図書館司書による小学校への出張ブックトークを実施しています。

2. 生涯学習の場として、高齢者の方や目の不自由な方が快適に利用できるよう大活字本、録音図書のより一層の充実を図り、より多くの方々の図書館利用の促進に努め、市民に憩いの場所を提供できるように努めてまいります。

3. ヤングアダルトコーナーの充実

4. 柏原市の郷土資料、名産品等の地域情報を収集、展示し、市民や他の地域の人々に柏原市をより深く周知してもらえるよう、柏原コーナーの充実を図っています。

5. 図書館相互利用制度の積極的なPRによる促進。

6. 図書館をより広くPRするため、平成26年6月1日より柏原市立図書館のホームページにSNSのリンクを設け、広域に情報発信を行うためツイッター及びフェイスブックを開始し、市民とのネットワークを形成し、図書館への来館、行事等への市民の参加を促しています。

平成26年度の上半期の事業については、別紙を参照してください。

下半期の図書館事業計画で、秋の読書週間に「親子で楽しむ、辞書を使って辞書引き学習」を行います。それと「ブックツリーを飾ろう」「本で読む大坂の陣」「本のリサイクル市」等を企画しましたので、よろしくをお願いします。

事務局

国分図書館は、12月4日をもちまして開館10周年になります。10周年の記念といたしまして各事業を考えております。国分図書館館長から簡単に報告してもらいます。

事務局。

先週、だいたいの大綱が出来上がりまして、まだまだ起案中ですので、参考としてお聞きください。何をやるかだけでなく、国分図書館として開館10周年をどう迎えて参りたいのかを少しお話をさせていただきたい。ただ5周年の時と同じように10周年の特別な予算措置はありませんので、大きなイベントを組むことは不可能でしたが、次長から人形劇はやっていいということで、読書講演会の費用を使わ

せていただくということで、これは11月3日にさせていただきます。

今、考えているのが「ぬいぐるみのお泊まり会」、昨年、全国で20館くらいしかやっていなくて、実は当館も行いまして反響がありました。神戸の方の図書館から「どうやってやるの」と聞かれ、聞かれた内容が実際に実施されていて新聞に掲載されておりました。今年はフェイスブック、ツイッター等強い味方があるので、しっかりPRしていこうかと思っています。昨年と同様、素晴らしい「ぬいぐるみお泊まり会」のしおりを作ります。ぬいぐるみが夜中に図書館を徘徊して、持ち主に図書館を紹介するイベントです。ぬいぐるみも図書館で作りまして、その紹介した本と一緒に迎えに来てねというものでした。これを9月27日にやることを考えています。

その他に「図書館フェスタお話の森」、5周年にも行いました、「青空おはなし会」をしようと思っています。図書館司書とできればボランティアの方にもご協力いただいて、昨年ははぐりとぐらの変身コーナーも作りました。そのようなワークショップも入れて1日楽しい催しができればと思います。もう一つ、「読書ノート」を考えています。子どもたちが読んだ本の記録を作っていく。他館では「読書通帳」というのがありまして、それはお金がかかるのでいいところ取りをしよう、自分の読んだ本を記録していきながら読書を楽しんでいこうという催しの一環として、11月9日に取り上げてみようと思案中ですが考えています。

10周年を迎えるにあたって職員でどうしようかと考えた時に、非常に大事な事として「図書館の果たす役割」とはいったいどういうものかを職員全員で話し合いました。

それはやはり、根底には地域の読書力を底上げしなければ絶対だめだろうなという話があり、先ほどの報告にもあったように、様々な幼児から高齢者まで本の大好きな方、本を読む方を増やしていくための図書館ではないか。そのいわゆる地域の読書力を向上させていこうという考え方の中で、5周年、10周年と大きなイベントを作りそれでおしまいではなく、読書力を向上するイベントと、本を読んであげるボランティアを育成する育成者、またボランティアのスキルアップのための「えほんの会」など総合的なもの全部、いろんなピースを組み合わせる10周年を迎えてはどうか。それが地域の読書力を引き上げていくのではないだろうか。これは直営の図書館でなければ絶対できないことだろうと話をしながら、それなら様々なピースを片っ端からやり、地域の読書力をあげていくような10周年にしていこうと、イベントを企画して進めつつあります。大きなイベントとしては人形劇、ぬいぐるみのお泊まり会、図書館フェスタのお話の森、読書ノート、12月のいつものクリスマス会、それとボランティアの皆さまの様々なお話会を含めて、レベルアップをした10周年をやろうという気持ちで進めています。まだ、決裁中で詳しい資料はお手元にお届けできませんが、こういう気持ちで迎えて参りたいと思っています。よろしくをお願いします。

会長

わかりました。

「平成26年度の上半期事業報告及び下半期事業計画」について説明がありましたが、なにかご質問はございませんか。

委員

下半期で「辞書引き学習」など非常に最近話題になっているものを、積極的にとりいれていただいていることに関しては、感謝するとともにこの部分については特に見学させていただきたいと思います。また、フェイスブックなどもうまく活用されていると感じます。本のリサイクル市に、参加しフェイスブックにもあげましたが、他市の方からの問い合わせが非常に多かった。柏原市が積極的に頑張ってやってきておられるので、今後も引き続き取り組んでいただけたらと思います。さきほど言われた「直営じゃないとできない」という話があったと思いますが、それをもう少し詳しくお話を。

事務局

単に本の貸出だけではなく、読書力を上げるというのは家庭のお母さん方が子どもに本を読むこと、そしてお話会でボランティアの方々が子どもたちに本をあげるスキルアップ、そういう方々がたくさんボランティアとして集うことが全体的に図書館の力をあげることに繋がると思います。そういうことをやるのはなかなか、お金儲けではできない気がします。ボランティアの講習会は今春やらせていただきましたが、子どもたちに本を読んでもらう方には何回でも参加してくださいという形でさせていただいた。絵本の会は、この中にも何名かはご参加いただいておりますが、お話し会をやっていく方々が絵本のバックグラウンド、作者のこと、どんな絵本がどんなふうに使われているのか、その基本をしっかりと学んでいただかないと、子どもたちにその心は伝わらないだろうということで毎月しています。かなりレベルアップになったと思います。この前、はじめての試みでビブリオバトルもさせていただいた。そのような様々なスキルを身につけて地域に根差していくことによって、地域の読書力が上がっていく。これはさすがに直営でなければできないかなと思っております。

委員

わかりました。ありがとうございます。

会長

ほかにはありませんか。では、私から。

25年度、今年度の上半期にいろんな事業をされたことは資料でわかりますが、事業をした結果、どんなふうに職員の方が感じられたか、その辺りの報告がありませんでした。25年度の事業、26年度上半期の事業をして結果、手ごたえや利用者の反応など顕著なものがあればよろしく願います。

事務局

まず、夏休みの工作ですが、定員がすぐにいっぱいになりました。親子で一緒に作っていただいているが、募集後すぐいっぱいになりました。親子で一緒に楽しくやるもので、また夏休みの宿題にも出せるというものです。リサイクル市は、回を追うごとに増えてます。蔵書で除籍する本を出すようにしました。古い本ですが、必要な方には喜んでいただいております。11月の読書週間にも予定しております。

ます。

会長

新しいことをいろいろ取り入れていただいて、ビブリオバトルを絵本でやってみようとか、職員の方が工夫をされて良いことだと思います。そのまま続けて行っていただければと思います。事業計画については、私も「辞書引き学習」が気になったんですが、これは何かひな型があって柏原でもやろうというものですか、それとも柏原独自こんなことをやってみようということですか？

事務局

ある出版社から提案をいただきました。今、辞書をあまり使わなくなったと。辞書本来の大切なものを見直していただくという趣旨で、30名定員でスタッフを3～4名来ていただき、小学校1～3年生を対象に、辞書はこういう風に活用するものだとPRしていくものです。図書館にも辞書がありますので、辞書の活用方法並びに、またクイズ形式で答えに付箋をはりその数を競争したりして児童に興味を持ってもらおうという趣旨であり、国分図書館でも行いたいと考えています。

会長

感想ですが、10周年としてやるものというよりは、柏原図書館として継続としてずっとやっていくことですので、10周年の機会をとらえて考え直してみようというのは非常にいいことなんで、積み上げた議論、考えていった理論や展開を今後ずっと続けていっていただきたいし、国分図書館だけでなく柏原図書館にも成果を生かしていただけたらと思います。

委員

、読書ノートはいい発想だと思います。他市で利用されている読書通帳いいかもしれませんが、これは子どもさんだけですか？大人もですか？

事務局

子どもも大人も両方です。お金をかけないため、手作りでご勘弁いただきたい。ただ内容は本を楽しむことを知っていただくことが目的です。

委員

借りられている方も、目に見えるものになると目標になったり、いろんな効果があると思います。ぜひ、取り入れてください。

会長

細かいことですが、ひょっとしたらプライバシーを気にした方がいいかと思います。読書記録が残っ

ていきます。もちろん図書館が持つのではなく、各利用者が持つわけですが、もし落としたりしたら、誰が何を読んでいるのかが当然わかる。気にしない人は気にしないが、気になる人は気になる。4分の1人は仮に自分にメリットがあっても自分にとっての読書記録や、購買記録というものは外に出したくないということがいろんなところに出ています。たとえば学校教育の中で強制されていったりすると、あまり嬉しいことにはならない。希望者がやるのはかまわないが、それを行うことで萎縮するとか、本を借りるのをやめようかと思う人が出て来ないような配慮が必要です。

事務局

自由参加です。試験的にやってみようということになりました。

八尾の図書館ですでにやられているのをお聞きして、良い成果が出ているとのことで、うちも試験的にやろうかと。

会長

3番目のその他について。

事務局

昨年、市長から公の施設について民営化あるいは管理委託が可能かを返答するという指示が出ましたので、これからの図書館運営のあり方について昨年7月と11月に協議会でお話をいただきご意見を頂戴いたしました。それからの指示が出ていない状態です。図書館といたしましては今の直営のまま運営を行い、スペースにも限りある中での、改装ができるということと書架を低くして空間を広くし、寛ぎの空間をつくり児童室の書架の配置換え等、いろいろと考えてはおりますが、今年は3階の工事があり予算的にもなかなか難しい面もありますが、これからの柏原を考える上において、その中の一つとして柏原図書館を入れていただいて新しい構想を持っていきたいと考えているところです。今はそのように考えています。市長からの課題や構想が、また出ましたら協議会のなかで、皆様のご意見を頂戴して検討を重ねたいと考えております。今のところは直営でやっていくということです。

会長

今のことについて、何か質問は、ありませんか？

委員

各位、いろいろご検討いただいていると思うので、広い視野で接していただきたいと思います。個人的にいろいろ調べている中で、東京の稲城市の図書館が民間活力を生かして非常に成功しています。自動貸出機や24時間貸出ロッカーなど市民サービス向上ということをしているので、これらを参考にしつつ調査・研究をしていただけたらと思います。それと、工事の関係ですが、市民の方々は工事が始まると「図書館が利用できるか」など、いろいろ聞かれると思いますが、影響は出ないんですね。

事務局

はい、出ないです。工事中でも開館はいたします。3階で行っている行事、紙芝居、お話会、クリスマス会等1階の学習室で開催します。そのことにより学習室が使用できない日があります。

委員

いつからいつごろまでですか？

事務局

今の予定では11月から年度末までという形です。

委員

聞かれたら、「図書館は今まで通り使えますよ」と言えばいいですね。

事務局

はい、よろしくおねがいします

委員

図書館の改修はないんですね。

事務局

文化センター3階の改修工事を行います。

副会長

柏原図書館と国分図書館と、貸出数とか見ても違うなと思います。例えばインターネットは国分が充実してて、本は柏原が充実しているように感じるのですが、図書館全体としてビジョンというか、性格というか、何か棲み分けというものがあるのですか？

事務局

国分図書館は2階が子ども図書館であり柏原図書館の児童室とくらべますと、スペースまた児童書数も格段の差がありまして、幼児、児童の利用が柏原図書館より多い。また3階の一般閲覧室も見晴らしの良いブラウジングコーナーもあり、書架なり、全ての面で新しい図書館です。柏原も児童室を広げて、スペース的にゆとりを持った図書館にしたいところですが、ここは公民館との併設館であります関係上、問題もあります。レベル的にも貸出冊数は大体同じですが、ゆとりの空間としては柏原は劣っていますので、考えていかななくてはいけない部分だと思っています。

委員

4ページの国分の図書館は13名配属されて、司書さんは9名。それに対して柏原の図書館は司書さ

んが3名。どうして国分が多いのか、移動も含めた交流等あるのか？

事務局

交流も考えたのですが、国分の司書さんは週30時間の制約がある中で、チームワークがよく、仕事に対するポリシーもしっかりしたものを持っており、10年間培ってきた国分図書館の経験のノウハウを活かして行きたいと考えています。柏原図書館におきましては、対外的な業務が多く、移動図書館（雨でも巡回）病院貸出、ブックポストの図書の回収・選別、予約図書の受け渡し、各図書館の回収、受け渡し、ブックスタートの準備等すべて柏原図書館で行っており、予算関係もあり、女性司書には、肉体的にきついのではないかと考えます。対外的な仕事ばかりでなく各児童書担当者により国分の司書との連絡を密におこない行事、展示、選書等により相互の交流を図ってっております。

会長

司書嘱託8名と書いてありますが、この方々はフルタイムではない？

事務局

週30時間勤務です。

会長

それなら4ページの書き方は変えた方がいいかもしれません。人数がフルタイム換算なら書き方を工夫したほうがよい。通常48時間ですから、30時間ならフルタイム換算なら5～6名かな。それでも柏原より多いですが。

柏原図書館は職員の方がかなり頑張っておられて、その結果、少ないソースでもって市民の方にそこそこサービスを市民に対してして下さっていると思います。サービスがどのくらい住民に利用されるかをきちんと分析した上で、新しいサービスは導入していただきたい。もちろん無限にお金があるなら、どんなサービスもいろいろやってよいが、そういうわけにはいかないの持っているいいソースを最大限に効率よく活用するのはどういう手法があるか。せつかく貸出ロッカーを作っても、ひと月に1人しか使わなければ、とても悲しい話になります。利用者のニーズ分析から始めて、どういうサービスがこの柏原市で利用者に対して必要であり、受け入れられるかを考えていただき、新しいサービスをいろいろ導入の検討をしていただきたい。

他に特にないようでしたら、本日の会議に付されました案件の全てが終了いたしましたので、これをもちまして平成26年度第1回柏原市図書館協議会を終了いたします。委員各位におかれましては、公私何かとご多忙にも関わりませぬご出席賜り厚く御礼申し上げます。進行を事務局にお返ししたいと思います。

司会

高嶽会長におかれましては、長時間にわたりまして議事進行をしていただきましてありがとうございます

ました。また、各委員におかれましては、貴重なご意見をいただきありがとうございました。今後とも職員一同、市民が利用しやすい図書館を構築していく所存でありますので引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、最後になりますが、本日の議事録につきましては、後日各委員に送付させていただいたうえで図書館のホームページに掲載させていただきますことをご了承賜りますようお願い申し上げ、閉会とさせていただきます。

本日はありがとうございました。